

12月18日

3回目の一般質問一問一答+まとめ

リニア問題-1

質問 リニア新幹線建設工事に関して、
戸中発生土置き場の経過について伺いたい

答 地権者と用地交渉中。1月にリニア対策委員会で説明

質問: 6月の一般質問で提案した工事の全体図が10月から村民ホールで掲示されている提示された。その中で、戸中発生土置き場について経過を伺いたい

総務課長: 戸中発生土置き場の候補地はH26.6に村から県の方に候補地としての情報提供以降、JR東海で様々な調整を行ってきた。候補地だが地権者との折衝、関係地区への工事計画説明などを経て、次の段階へ進められる条件がほぼ整ったので、リニア関連工事地図へ表示した。今年度に入ってから、4月と6月に地権者対象の説明会、8月に地元地区と下流域関係地区での工事計画説明会、その後に地権者との個別の用地交渉などを重ねてきた。1月に村のリニア対策委員会で、これまでの経過や発生土置き場造成計画について詳細な説明がされると思う。本日終了後の全員協議会でも経過をまとめた書類を配布し、経過の説明をする。

質問: 一昨日の吉川議員の一般質問に関連して、『本山発生土置き場について保安林解除申請は、長野県の林務部が内容を審査中で、審査を経て林野庁に申請書類が進達される予定。最終的な許認可の時期は、現時点においては明確にできない』というこ。年明けのリニア対策委員会では、戸中の発生土置き場について取り上げられる。この後の全員協議会で説明されるということだが、対策委員に対しても、1月の当日ではなく事前に資料を配布頂ければ、委員個人が目を通す、あるいは代表する組織の内部で意見を頂く事も可能と考えるが、いかがか。

総務課長: 現在のところは、年明けのリニア対策委員会に置いて、造成計画の計画図等々をJR東海の方でお配りして説明頂く予定。今、ご提案いただいた内容についてはJR東海と相談して、その方がより良いという事を両方で相談して判断できれば検討してみたい。

要 望

村のリニア対策委員会は、JRや中部電力の説明を聞くという事も重要だが、一度見てその場で意見を言える方は少ないと思う。多様な意見が委員会において発言できるよう、開かれたリニア対策委員会として、運営の改善を求める。

質問 リニアを推進する**首長の責任**として、**盛土の安全を維持するため、排水機能が適切に機能するよう、100年、200年と維持管理を続ける仕組み**や土砂で埋まったり、老朽化したりした場合、**必要な設備更新などの財源をJRに断固として求めていただきたいが。**

答 排水施設等が**適切な機能を発揮し続けるために維持管理を徹底するよう、JR東海に要請する予定**。状況に応じて**確認項目などを文書で締結すること**としていきたい。

質問：本山の保安林解除の時期はまだ不明ということだが、前回、本山発生土置き場の技術的課題については何点か指摘させていただいた。JRは計画にあたって、「**100年に1度**」の確率の降雨強度に対応できる調整池や排水管の容量を確保しているとしているが、管が目詰まりすれば、いくら余裕をもった規模の大きな管を敷設しても排水設備は機能しない。

12月3日、スペインのマドリードで開催されたCOP25の冒頭でWMO世界気象機関は「**地球温暖化により『100年に1度』は当たり前になっている**」と警告している。11/28新聞報道では、今回の台風19号で千曲川立ヶ花地点の上流域で2日間の平均雨量が、国の信濃川（千曲川）水系河川整備基本方針が『100年に一度の大雨』を想定して定めた雨量の計画値186mmを10mm以上超えた。国土交通省河川計画課は「基本方針を見直すかどうかも含めて検討していく」としている。このように、地球温暖化は現実のものとなり、甚大な災害が頻発する時代に過去の安全基準は通用しなくなっている。虻川上流にこれから計画される戸中の発生土置き場を含めて2カ所の発生土置き場が計画されている中で、下流域住民からは一戸一戸回ると不安の声が寄せられる。不安の背景には説明会に出席できない、資料を見たこともない、技術的なことで理解し難いこともある。吉川議員の提案では、知らないでいる不安を解消する手立てとして有線のケーブルテレビで工事の状況を逐次放映するという提案があった。是非実行して頂きたい。情報を得られない人に有効であったのは、**11月22日の信濃毎日新聞**。工事計画の問題点を図や専門家への取材を交えてわかりやすく取り上げられていた。その中で、「**排水機能が機能する限り、盛土崩壊の危険はほぼない。**」とする一方「**盛り土の高さが高くなるほど危険が増す**と指摘している。本山の谷埋め盛土の高さは50mに及び、盛土設計における最高高さ25mを優に超えている。上流の谷に膨大な残土を置くことは、自然災害の危険を増幅させると言うより、もはや**自然災害ではなく想定できる人災を容認することではないか**。記事では専門家が「適切に排水が機能するよう100年、200年と維持管理を続ける仕組みがあるかが問題」とし、「土砂で埋まったり、老朽化したりした場合、必要な設備更新などの財源をどうするのか。**JRと行政の事前協議が重要**」と指摘している。

村長は諸手をあげて奥山に残土を置くことを賛成しているわけではないと、強調される。であれば、**リニアを推進する首長の責任**として、**盛土の安全を維持するため、排水機能が適切に機能するよう、100年、200年と維持管理を続ける仕組みや土砂で埋まったり、老朽化したりした場合、必要な設備更新などの財源をJRに断固として求めていただきたいければ心強いが**。村長のお考えは？

村長：現在、本山発生土置き場計画地は保安林解除に向けた行政手続きが進められているが、長野県、林野庁に造成計画の審議や審査を頂き、安全性の再調査が行われることとなる。また、戸中発生土置き場候補地は、林地開発許可申請が必要で、県の林務部で審議・審査される。2カ所とも最終的に認可が下れば安全性が担保されたものとしてあらためて認識すること考えている。

今後は排水施設等が適切な機能を発揮し続けるために維持管理を徹底するよう、JR東海に要請する予定。状況に応じて確認項目などを文書で締結することとしていきたい。

結び：今の村長の言葉で、保安林解除がされ、工事が始まる際に管理について、JRに対してしっかり**確認書を交わすなどの文書のやり取りをするという言葉**を聞き、**安心した**。その態度で村長の強い姿勢を是非JRの方にしていきたい。

まだ 安心できません！！

村長は 『状況に応じて』 確認事項などを文書で交わすとしている。これから、『**確実に**』 JR東海の責任において、決して自然には帰らない、130万㎡の土砂は雨水と共に流れ続ける。その土砂で災害が起こらない管理を無期限で実行する約束を文書で求めていく必要があります。



本山残土置き場の春